

固定チームナーシング研究会 地方会だより

長野

第26回固定チームナーシング研究会長野地方会担当
近藤世音子〔飯田市立病院〕



第26回固定チームナーシング研究会長野地方会を2022年7月2日、ハイブリット形式で開催しました。コロナ感染症対応として第24回・第25回と誌上発表となりましたが、今回は北神洋子会長、西元勝子名誉会長、杉野元子先生をお迎えすることができ、人が人と直接出会うことの大切さを実感することができた地方会となりました。参加施設数19施設、参加者は先生方を含め300名と盛會に開催することができました。

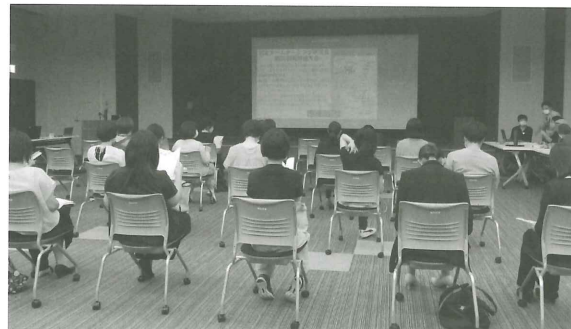
今回のメインテーマは「今だからこそ看護の力を伝え合おう——限らない固定チームナーシングの力を発揮して」とし、本来の看護とは何か、患者さんと直接触れること、家族の来院機会が減少することでの課題など、看護・介護の力を発揮するために取り組んだ小集団活動31題の発表をいただくことができました。このうち7題は、COVID-19の対応や工夫、さらには災害想定シミュレーションなど、この2年間の奮闘を看護の魅力ある活動成果としての報告となりました。

当日は13時から開会式で3人の先生方に

元気なご発声をいただき、当番病院をホスト会場として参加施設単位で18のサテライト会場をつなぐ形でスタートしました。その後、3分科会に分かれ、第1会場を北神会長と北澤佐智子認定指導者、第2会場を西元名誉会長と松島身和認定指導者、第3会場を杉野先生と青木涼子認定指導者をアドバイザーに1群5題を2群ずつ発表いただきました。発表後は通常「質疑応答」とするところですが、やはり固定チームナーシングでは情報交換を大切にしたい、明日からの看護・介護に活かす、参加者1人が1つは何か持ち帰ってほしいとの思いで「情報交換の時間」としました。一部の会場では、多少の音声トラブルはありましたが、その他、大きなトラブルなく皆様のご協力のもと分科会を終了しました。

15時10分より50分という短い時間ではありましたが、新会長になられた北神洋子先生より「固定チームナーシングと看護・介護と人材育成」と題し、自己紹介も含めこれからの固定チームナーシングの展望を講演いただきました。アンケート結果では、もう少しお話を聞きたかったというご要望もありましたが、固定チームナーシングの根幹は変わらないことを確信いたしました。

次回第27回は、JA長野厚生連長野松代総合病院が事務局当番病院で小林聖子看護部長を実行委員長として、2023年7月29日（土曜日）の開催を予定しております。固定チームナーシングによる看護実践の成果を共有し、看護を語れる機会となりますように、多くの皆様のご参加をお待ちしております。



今だからこそ看護の力を伝え合おう——限らない固定チームナーシングの力を発揮して

固定チームナーシング第13回中国四国地方会は、「経験は財産、語ろう！未来につながる看護・介護」をテーマに、2022年8月28日に開催しました。この時期、新型コロナウイルス感染症第7波によって過去最大の感染拡大の状況になりました。対面で開催するかどうか、話し合いを続け、感染対策を確実に実施していくことで対面開催を決めました。参加を予定していた方も職場の状況等により会場への参加ができない状況であったため、急遽、Zoom配信の準備を行ない、ハイブリット開催に切り替えました。企画側も初めての経験でしたが、岡山コンベンションセンターの方に協力をいただき、有意義な地方会の開催ができました。

会場には西元勝子名誉会長、北神洋子会長、

中国四国

固定チームナーシング研究会 地方会だより

固定チームナーシング第13回中国四国地方会会長
小阪マリ子
〔独立行政法人地域医療機能推進機構徳山中央病院〕

て10題の発表を行ないました。COVID-19入院患者の不安を軽減するための取り組みや、外来と病棟の連携の仕組みづくりなど、まさしくこの現場で実践されている内容について、参加者と活発的な意見交換をすることができました。



杉野元子先生をお迎えし、講演および講評をいただくことができました。会場への参加者は123名、Web参加者は22名の総数145名の参加者でした。

講演は、北神洋子会長に「組織を活性化する固定チームナーシング」をテーマに、これまでの固定チームナーシングの経験談を踏まえて固定チームナーシングの歴史をお話いただきました。参加者のアンケートでは、「看護を振り返る機会になった」「看護チームの現状分析と理念を持つことが大事という言葉が印象的だった」「新会長のことを知ることができてよかった」などの声が寄せられました。

また、一般演題はI群「業務改善・体制づくり」、II群「患者支援・看護ケア」合わせ

会場に参加された方からは、「チームで関わる大切さ、それが看護の質向上につながる感じた」「コロナ禍でも小集団活動の活発さが聞けてエネルギーをもらった」などたくさん積極的な意見を聞くことができました。開催することの喜びを感じることができました。

これからも大きく広がる看護への期待に応え、その役割を果たしていくためにも、また看護の力をより一層強めていくためにも地方会を盛り上げ、現場に生かしていける材料を提供できるよう企画していきたいです。

次回、第14回中四国地方会は、2023年7月1日（土）岡山コンベンションセンターで開催予定です。多くの方の参加をお待ちしております。

経験は財産、語ろう！未来につながる看護・介護